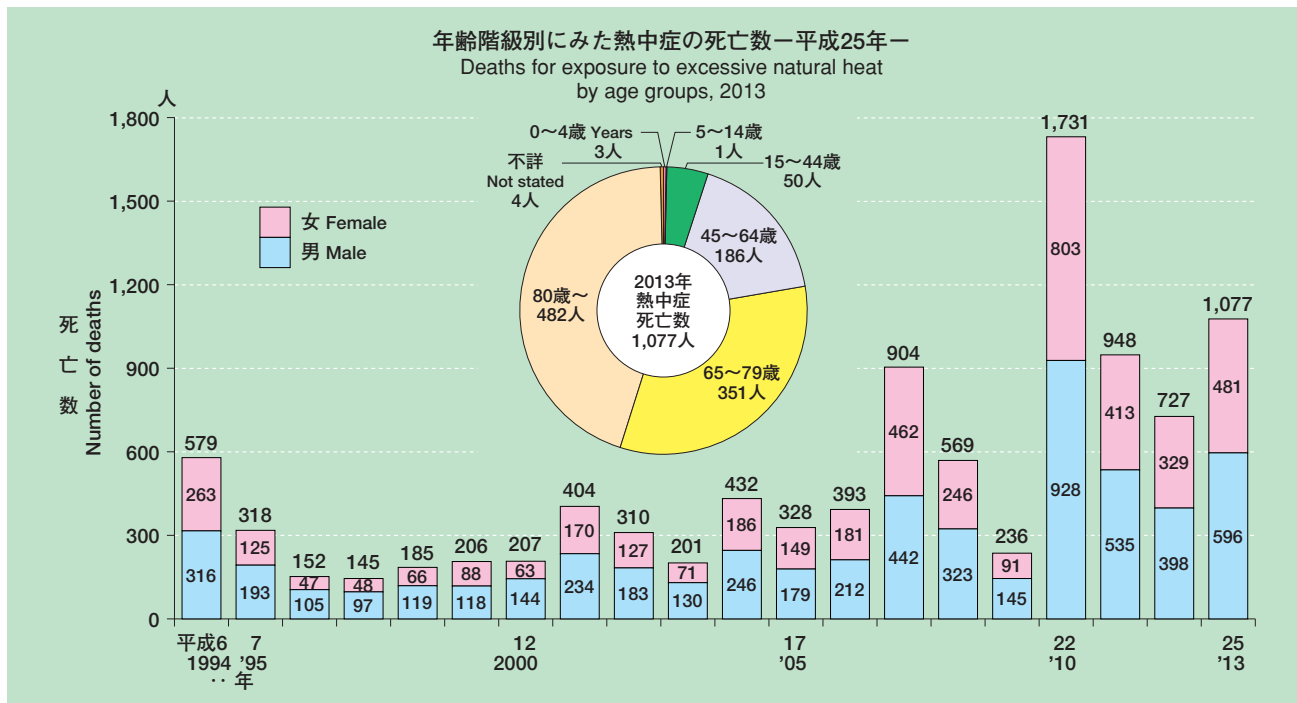
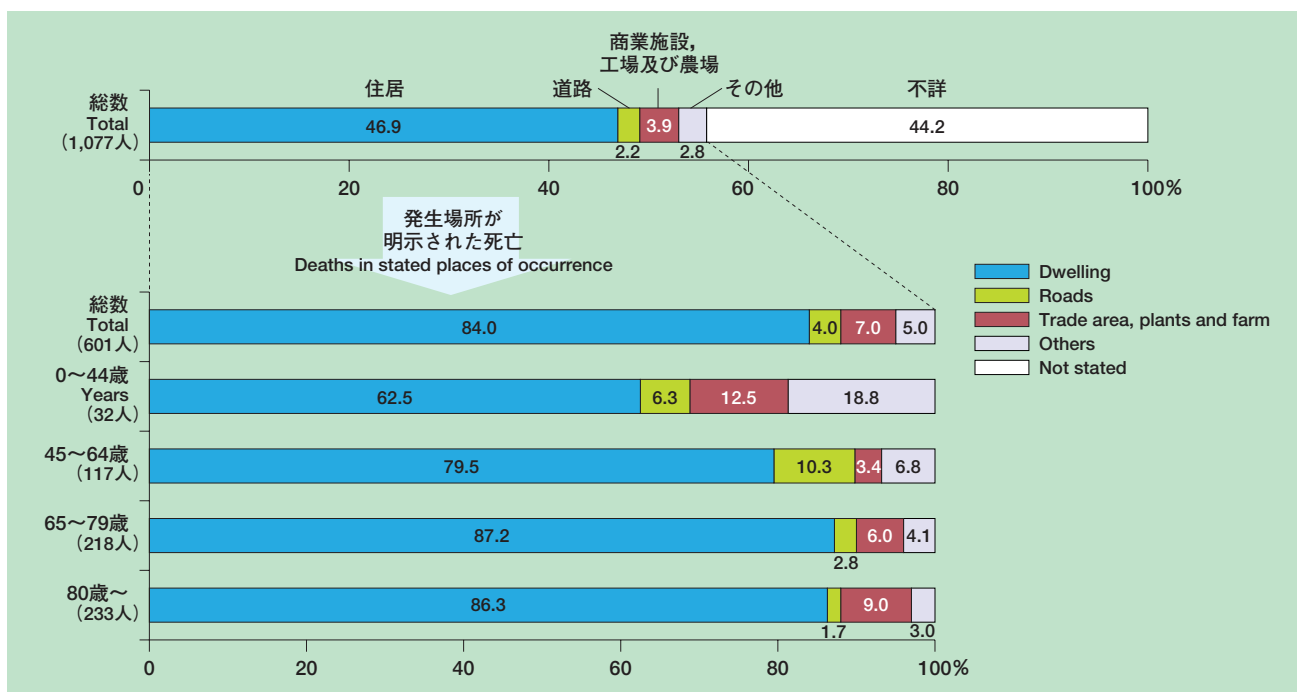


熱中症の死亡数の年次推移—平成6～25年—
 Trends in deaths for exposure to excessive natural heat, 1994-2013



年齢階級別にみた熱中症の死亡数の発生場所別構成割合—平成25年—
 Percent distribution of deaths for exposure to excessive natural heat by age groups and place of occurrence, 2013



注：1) 住居←家(庭)、居住施設 Dwelling←Home and residential institution
 2) 道路←街路及びハイウェイ Roads←Street and highway
 3) 商業施設、工場及び農場←商業及びサービス施設、工業用地域及び建築現場、農場
 Trade area, plants and farm←Trade and service area, industrial and construction area and farm

平成25年の熱中症の死亡数は、男596人、女481人で合計1077人であり、統計として把握できる昭和39年以降過去最高となった平成22年に次いで多くなっている。年齢階級別にみると、65～79歳が351人、80歳以上が482人であり、65歳以上の死亡数が全体の77.3%を占めている。

発生場所がわかっている死亡を年齢階級・発生場所別にみると、いずれの年齢階級でも住居が多くなっている。

* 本書の場合の「熱中症」は国際疾病傷害死因分類における「自然の過度の高温への曝露」にあたる。